

第2回都市計画に関する基本的な方針等改定推進委員会 会議録

日 時	令和元年11月5日(火) 10:00~12:00	会 場	大田区役所 11F 会議室
出席者	委員：岸井委員長、中西委員、市古委員、福田委員 事務局幹事：まちづくり推進部長、都市開発担当部長、産業経済部長、都市基盤整備部長、都市計画課長、空港臨海部調整担当課長、防災まちづくり課長、拠点まちづくり担当課長、企画調整担当課長、工業振興担当課長、都市基盤管理課長、道路公園課長		

【委員長】 本日は全体の構成について説明していただき、特に重点課題についてご意見をいただきたいと思ひます。

現行都市計画マスタープランの4頁を見ていただくと、平成23年に改定をしたと記載があります。その時の目次立てと資料3を見ていただくと、現行都市マスの第2章や第5章のあたりが今回提示されている構成(案)の第4章、第5章に関わってくるかと思ひます。

基本計画と都市計画マスタープランは歩調を合わせていく必要があり、その対応を資料4で示して頂いているかと思ひます。資料4の基本構想から個別目標に関しては変更しないと聞いております。これに対して、都市計画の基本方針である都市計画マスタープランとしては何を大事にしていくかということで、現状の分析から始まり、7つの重点項目を提案していただいています。これは現行都市計画マスタープランでいうと、都市づくりの理念で書かれている内容と似たようなところがあるかと思ひます。第5章でも重点課題の方向性がありますが、こちらは中心的な拠点の話でござひます。現行都市計画マスタープランを踏まえつつ、各委員からご意見をいただきたいと思ひます。

また、都市づくりビジョンとは何かをあらかじめ紹介させていただくと、1頁に背景が書かれていますが、現行都市マス策定時の平成23年度から状況が大きく変わってきています。羽田空港の国際化や東日本大震災の発生、2020年のオリンピックパラリンピックの開催決定、交通施策審議会での新しい交通施策など、社会状況は大きく変化しています。今回改定する都市マスに合流していくような位置づけで作り変えていきたいという考えかと思ひます。

【委員】 資料4について、現状の基本構想の内容は現行の基本構想であるのか、それともリバイスされたものが示されているのでしょうか。

(事務局) 現在、令和2年を目途に基本構想を改定しているところです。基本理念から将来像、基本目標、個別目標までの部分は変更しないことになっており、資料4では、現行の基本構想に新しい都市マスがどのように連携しているかを示しています。

【委員】 現行都市計画マスタープランは基本的には指針のようなもので、数値目標は書かれていないかと思ひます。今回の都市マスでどこまで具体的な目標を書けるのかが重要な検討項目になってくるかと思ひます。

区を取り巻く状況や社会的状況について、平成23年時点では想定できていなかった将来の項目について、整理していただけるといいのかなと思ひます。

(事務局) 資料5-1の左側、都市づくりの現状と課題の中にある「将来の変化」というところで想定をしています。将来の変化を盛り込んで新しい視点を入れており、資料集の29頁以降で項目出しをしています。交通に関しては、MaaSや自動運転についても想定をしているところです。新しい要素を具体的にどう取り込むかは悩ましいところですが、資料5-1の現在の課題に将来の変化も踏まえ、カテゴリー別に整理し、重点項目を示しています。将来の項目については見えにくいところではござひますが、先生方とご相談させて頂いて、強調すべき点が見える形で都市マスに落とし込んでいきたいと考えています。

【委員長】 都市づくりビジョンの5頁に新たな特区の制度や新空港線について書かれています。しかし、社会の変化はさらに激しく動いているので、付け加えて整理していただければと思ひます。

- 【委員】 前回の議論を踏まえて、現行都市マスの振り返りや評価を、指標として示していただいているというところは大事な視点だと思いました。
- 都市マスの他の計画との位置づけに関して、都市づくりビジョンは空間像をビジュアルで丁寧に示されているかと思います。今回の改定で、ビジョンをビルドインするのか、リバイスするのかという議論があるかと思いますが、ビジョンに対して指標的なものを上手く利用して基本計画や基本構想と連携した方がいいのではないかというのが感想です。
- 振り返りの作業を踏まえて、将来的にモニタリングや評価ができそうな項目を組み込めると、区民にも分かりやすく示せるのではないかと思います。
- (事務局) まちづくりをある程度の年度で振り返ることはできるかと思います。ただ、区民の皆さまへの伝え方や施策の展開を踏まえると、振り返りが可能かどうかは悩ましいところで、現段階では5年後くらいにモニタリングしてお知らせしていくことは考えているところです。
- 基本計画の指標とも連動していきながら何年ごとに振り返りをするのか、都市マスも同じような指標で評価するのか、というところを検討しており、他の計画との関係性を明確にして指標管理できればいいと思っております。
- 【委員長】 ここで一度、基本計画の策定スケジュールをご紹介いただきたいと思います。
- (事務局) 参考資料のスケジュールをご覧ください。大田区新基本計画の策定を上段にお示ししています。令和2年度までとなっていますが、これから検討会が始まっていくところですので、詳細なスケジュールは次回以降お示しできるかと思います。
- 本日、基本計画の担当課長が出席しておりますので、ご説明させていただければと思います。
- (事務局) 新基本計画ですが、今週金曜日に有識者を交えた第1回目の懇談会を予定しています。現段階の予定では、6回ほど懇談会を実施し、令和2年度の策定に向けて進めていきたいと考えています。
- 【委員長】 基本構想の指標と都市マスの指標を連動して評価できるように調整しながら検討していただければと思います。
- スケジュールに示されている基礎調査は、都市づくりの現状資料集に結びつくもどと思ってよろしいでしょうか。この資料集は非常に重要であると思いますので、区民の皆さまにお届けできる形で整理できれば良いと思います。
- 【委員】 資料5-1において、カテゴリーと基本構想の個別目標が連動するように整理していただくと、都市マスが基本構想を実現するものとして認識できるのではないかと思います。また、都市づくりの重点項目が7つ提案されていますが、7つの関係性が分かりにくいと感じました。例えば、1は広域的なもの、2は地域目線といったように7つの重点項目の順番や関係が並列ではないので、7つの重点項目が区民の生活を支える要素として重要であるということが分かるように、関係性を整理していただくのではないかと思います。
- 【委員長】 資料5-1のカテゴリーは残るものなののでしょうか。
- (事務局) 重点項目については、大田区らしさを出した方がいいということも踏まえて、7つお示しさせていただいています。文言については変わる可能性があります。多様なライフスタイルへの対応や国際都市、ものづくり産業に関する内容を含めて整理させていただいています。優先度はまだ整理できていませんので、これから検討していきたいと考えています。広域的か地域的かという観点も重要な視点だと思いますので、今後検討していかなければいけないと考えております。
- 【委員長】 資料4を見ると、基本構想の都市基盤の要素が都市計画マスタープランに一番関連が深い項目だと思います。基本構想の1～3までが全て並列なのかという点も関わってくるかと思いますが、分かりやすさと都市計画マスタープランとして大事にすべきところを整理しながら、工夫して書く必要があるかと思います。
- 【委員】 優先順位をつけるに越したことはないと思います。優先順位を考えないと効率的な都市づくりはできないと思いますが、順番付けが難しいことは分かります。必ずしも順番付けが必要というわけではなく、7つの重点項目の相互の関係性が分かるような形で整理していただければと思います。

- 【委員長】 最近では、台風が話題になっていますが、従来の都市マスでは不燃化などに焦点が当てられており、川の氾濫などについてはあまり取り上げられていないかと思えます。台風19号では、想定以上の危険性を感じている方も多いと思えますので、現況分析も踏まえて評価した方がいいのではないかと思います。
- (事務局) 当初から災害後の復興に関する記述を入れていきたいと考えていました。今回の台風では、想定を超える水害が大田区だけではなく周辺区でも起こっており、復興というよりは減災型(事前復興)の考え方も現状整理をし、今後追加していきたいと考えています。
- 【委員長】 市古先生がご専門だと思いますので、ご相談してご検討いただければと思います。
- (事務局) 基本計画の方から補足させていただくと、新基本計画の中でも、国土の脆弱性を評価し、災害に事前に対応していく視点から、国土強靱化の考え方を含めていきたいと考えております。
- 【委員長】 新しい話題で不足している部分があれば本日ご指摘いただいて、ご検討いただければ良いと思います。
- 【委員】 臨海部のグランドビジョンの観点から補足させていただくと、大田区全体の都市構造をみた時に、緑豊かな臨海部と内陸部が分断されているのはもったいないと感じています。羽田空港が近いことから観光などにも活かしていけたらいいと思いますが、ぜひ内陸部だけでなく、臨海部と内陸部をつなげて、区民の皆さまのために水辺や緑を提供していただければ良いと思います。
- (事務局) ネットワークの観点から将来都市構造の資料を見ても、やはり臨海部とつながっていないことが分かるかと思えます。今後軸を検討していく中で、軸の質や臨海部の使われ方について検討議論していただきたいと思います。
- (事務局) 現在国交省と連携し、ソラムナードという緑道を堤防沿いにつくっており、羽田空港からその緑道を通って、ふるさと浜辺公園まで歩いて行けるような水と緑のネットワークを整備しているところです。こういった取り組みを皮切りに、区民の皆さまが臨海部に近づけるような取り組みと交通ネットワークを検討していきたいと思っております。
- 空港臨海部グランドビジョンにおいても、臨海部と内陸部のアクセスは課題として捉えています。区民の皆さまに魅力ある公園を利用いただくためにも、アクセス向上に努めていきたいと考えています。
- 【委員】 臨海部グランドビジョンとして別に考えてしまうと、都市マスにおける臨海部の位置付けが弱くなってしまいますので、都市マスとしても大きな位置づけとして考えていただきたいと思っています。また、ものづくりといった観点からも臨海部の産業拠点は重要であり、大田区の重点項目には直接的に影響してくる要素かと思えますので、グランドビジョンレベルではなく、都市マスレベルでも扱っていただけると良いと思います。
- (事務局) 大田区はものづくりに力をいれていますが、新たな産業が生まれていく中で、臨海部はますます重要な拠点になってくると考えております。その中で、都市マスと同じくらい重要な位置づけとして産業のプランニングが進められておりますので、担当課長からご説明いたします。
- (事務局) ものづくり産業として、臨海部は大変重要な地域でございます。現在5年ぶりに現状分析を進めており、次年度以降「(仮称)大田区産業振興構想」としてまとめていく予定です。都市マスや臨海部グランドビジョンと整合性を図り、連携しながら、大田区の産業がどうあるべきか方向づけていきたいと考えております。
- 【委員長】 臨海部については、土地利用としてどう考えていくかという大きな方針を検討することや、水辺や緑のネットワークがあるということ、区民の皆さまにきちんと認識していただくことが必要かと思えます。
- 今後の改定に向けた取り組みとして、区民の方々の意見を伺いながら進めてまいりますので、事務局に残りの区民参画の資料について説明していただきたいと思えます。
- 【委員長】 区民参画について意見募集箱やワークショップを行うとのことですが、どういう情報を提示して実施するのでしょうか。

(事務局) 11月から意見募集箱を特別出張所等に設置させていただきます。また、同時に座談会も実施し、参加者には引き続きワークショップにも参加していただきたいと考えております。企画部門の方でも同じような区民参画が予定されておりますが、都市マスの区民参画では、より都市づくりの観点でご意見をいただきたいと考えております。

【委員長】 アンケート結果では、都市マスの認知度が低いという結果が出ておりますので、何も情報がないと区民の皆さまは意見を出しにくいと思います。どういう情報を提供していけばいいのか、工夫して考えた方がいいのではないかと思います。

(事務局) 意見募集箱と一緒に区民参画のチラシを置く予定でございます。チラシには、簡単に都市マスとはどういうものか説明させていただくとともに、QRコードから本編の都市マスを見ていただけるようにしております。意見箱には、テーマを絞って意見をいただき、出てきた意見のキーワードをワークショップに活用し、最終的にポスターセッションで成果品として公表したいと考えております。

(事務局) どうやって区民の皆さまに都市マスを周知していけばいいのか悩んでございます。基本計画や蒲田のランドデザインと合わせて、イベント等に参加して、周知を図っているところです。

【委員】 まちづくり条例との関係が整理されていないように感じています。まちづくり協議会は、まちづくりに関心を持っている方々が取り組んでいらっしゃると思いますので、少なくとも認定されている協議会には、区民参画の周知をして参加を呼び掛けていただきたいと思っております。

(事務局) まちづくり協議会は重要だと認識しており、今回の都市マスには、関心のある方がどうすればまちづくりに関われるのかといった視点を組み込んでいきたいと考えております。来年度以降、地域別構想を進めていく中で、まちづくり協議会をはじめとする地域の方々に参加していただきたいと考えておりますが、地域別だけではなく、大田区全体のところでも皆様の意見を反映できるような体制を整えていきたいと考えております。

【委員】 ぜひそのように進めていただきたいと思っております。また、まちづくり条例も策定されてからかなり時間が経過しているため、都市マスとともに改定を考えていただきたいと思っております。

【委員】 最後にまとめて意見を述べさせていただきます。まず、7つの重点項目について、産業と環境問題が重複している要素もあり、より連携を図っていくという観点から精査して頂きたいと思っております。

また、臨海部において、水面利用を丁寧に位置づけて頂きたいと思っております。現行都市マスでは、水と緑の項目がありますが、水についてはあまり触れられていないように感じました。水面は内陸部に行けば行くほど水質が悪化していくと考えられますので、東京湾に近いほど水面利用に適していると思っております。ビジョン 41 頁のように、水面に緑の拠点を上手く配置して、ネットワーク化を図っていただきたいと思っております。

防災に関連して、資料集の中で地域防災訓練への参加率を指標として示して頂いておりますが、このような指標は非常に重要だと思います。地域の自主的な取り組みやアクティビティを支える空間とリンクするような指標があると良いかと思っております。

また、台風 19 号にも関連して、災害ボランティアセンターを押さえていただきたいと思っております。区として、災害の事前事後でアプローチをしていくことに加えて、より区民目線で NPO や NGO、法人を含めた連携を図っていくということも含めて考えていただきたいと思っております。

【委員長】 4点目の災害ボランティアセンターの観点については、都市マスで位置付けるのは難しいかと思っておりますが、アクションプランとして担い手をつくっていくということは非常に重要でありますので、上手く取り入れられると良いと思っております。

【委員】 臨海部について、特に東西のつながりが弱いと感じましたので、都市マス改定を機会に検討して頂きたいと思っております。特に資料6の都市軸について、新空港線軸だけでなく、昭和島、京浜島、中央防波堤のところも東西の軸と設定し、モビリティを強化して東西

のつながりを実現していくべきではないかと思います。新モビリティなどを活用して東西の軸と位置付けられると、新たな展開として都市マスに組み込めるかと思います。

【委員長】
(事務局)

これからの進め方について事務局から何か説明しておきたいことはございますか。
今後都市づくりの重点項目を分解していきながら部門別方針を検討する予定です。重点項目を縦軸、部門別を横軸にして部門横断的に施策が見える化していきたいと考えています。見える化した施策については、新基本計画の施策とも共有していく予定です。

【委員長】

新基本計画の策定作業とよく連携をとって齟齬が無いように改定作業を進めていただき、共通の認識の下で進められるように工夫して頂きたいと思います。

以上